

## 第二言語習得論

科目責任者 柿谷 丈  
学年・学期 1学年・3学期

## I. 前 文

日本では、英語を長年の学校教育において学ぶものの、「英語の学び方」について学んだ経験のある人は多くない。本講義では、第二言語習得研究に基づき、人が第二言語を習得するプロセスについて考察する。

## II. 担当教員

助教 柿谷 丈 基本医学語学・人文教育部門（英語）

## III. 一般学習目標

本講義では、人が第二言語を習得するプロセスについて学ぶ。また、科学的研究に基づき、様々な外国語学習法の効果を検討する。本講義を通して、効果的で効率の良い外国語学習法への理解を深める。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 人が第二言語を習得するプロセスについて理解する
- 2) 科学的な外国語学習法について学び、視野を広げる
- 3) 研究の知見を自身の外国語学習に取り入れることができる

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	10	7	水	4	イントロダクション (第二言語習得論とは)	柿谷 丈	2, 3
2		14	水	4	外国語学習はいつ始めるのが良いのか (臨界期仮説の検討)		2, 3
3		21	水	4	インプット—インタラクション—アウトプット仮説		2, 3
4		28	水	4	「知っている」と「使える」知識の違い		2, 3
5	11	4	水	4	認知心理学×第二言語習得研究に基づく学習法		2, 3
6		11	水	4	留学・英会話・AIによる外国語学習		2, 3
7		18	水	4	発表・まとめ		1, 5

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。( ) 内は評価の割合。

積極的な授業への参加 (40%)、リフレクション・レポート課題 (40%)、発表 (20%)

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

必要な資料等は適宜配布する

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し、会議等により留守にする場合もあるので、予め連絡を取ることを。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内もしくはLMSを通して対応する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事後学習（30分）：授業内容を振り返り、配布資料やノートを用いて重要事項を整理する。講義内容に関するリフレクションをLMSにて提出する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, RE-01-01-01, RE-01-01-02